

山形大学海外派遣プログラム実施報告書



派遣先 延辺大学（中華人民共和国）

派遣期間 2015年8月31日～2015年9月18日

《2015年10月2日（金）提出》

平成27年度入学 山形大学工学部バイオ化学工学科 1年

15513046 長岡敬太

1. 日本語教室での活動内容

山形大学による日本語教室は、今回が初めてであったため、水曜日の 18:00~20:00、土曜日の 14:00 から 16:00 の週 2 回試験的に開講した。また日本語学科の講義のアシスタントとしても活動した。

第一回目の山形大学による日本語教室について、これは失敗に終わった。なぜ失敗したかを「教え方」「内容」「時間」の観点から分析した。(表 1)



表 1

予定していたこと		生徒が求めていたこと
英語による説明 黒板を用いての授業	教え方	中国語による説明 視覚的な授業
「ひらがな」「カタカナ」など 文法的なこと	内容	日本食、アニメ、漫画など 日本文化について
120分~180分	時間	90分

このように山形大学が予定していたことと、生徒が求めていたことに齟齬が生じていたため、最初の日本語教室は失敗してしまいました。山形大学ではこうします、ということを一方向的に押し付けるのではなく、生徒目線の授業作りが重要であった。

2. 本プログラム 4 つの目的についての成果・現地での交流活動

①自分自身や日本人としての知覚力を身につける

派遣前は自分自身について考えたことがなく、「自分とは何か」という自己認識力は全くなかった。しかし、派遣中周りは日本人ではなくなるため、自然と日本人とは何か、自分とは何かを考えるようになった。

日本人としての作法（「こんにちは」「ありがとうございます」「いただきます」などの挨拶やお辞儀など）は日本にいる時はあまり意識していなかったが、海外の人はその丁寧さこそ日本の特徴の一つと捉えているので、私も日本人の一人として忘れてはならないことだと感じた。

②相手や異文化への理解力を身につける

海外に行く事で自分がマイノリティーになることに不安であったが、相互理解を得ることでその不安が消えた。日本にいるときは日本人とコミュニケーションをとるので、簡単に意思疎通ができるが、海外では日本とは違った文化、習慣、考えた方なので、日本での価値観を一方向的に押し付けていては異文化を受け入れることはできない。海外ではこのような考え方があり、と寛容的に受け入れることで初めてコミュニケーションが取れるのだと感じた。

また、日本では体験することのできない国境見学や、チューターの人と山登りなど積極的な交流も行った。

③臨機応変に創意工夫できる適応力を身につける

1. 日本語教室での活動内容、でも示した通り最初の日本語教室は失敗してしまいました。しかし、その失敗を失敗で終わらせるのではなく、なぜ失敗したのかという要因を掴み、次に繋げていくというPDCAサイクルを徹底させたことによって、創造能力を身につけることができた。

④英語力を含めたコミュニケーション能力を身につける

生徒と連絡を取るときや授業中、私は中国語を話せないの
で英語で話した。やはり英語は国際語であるので、話せなければコミュニケーションの手段を失うのでとても重要であった。

しかし英語だけ身につけていれば良い、という考えは甘いという事に気づかされた。延辺大学の学生の中には英語、中国語を身につけた上で日本語を勉強している生徒もいた。

中国は現在高い経済成長率を維持し、2010年には経済の分野で日本を追い越した。そのため中国は日本企業にとって重要な拠点であるため、中国語を話せる人材がますます必要とされている。そのため、英語学習を怠らないのはもちろんのこと、中国語の学習についても授業をより真剣に受け、使える中国語を身に付ける事も重要であると感じた。



3. プログラムに参加した感想

海外へ行くことは今回が初めてであり、特に中国は反日デモや日中関係の悪化、爆発事故など悪いニュースばかりで不安であった。しかし、実際に中国へ行ってみるとその不安はなくなり、自分が中国に対し、いかに偏見を持っていたかが分かった。日本語学科の生徒はとても可愛く、日本にとっても興味を示してくれたことに驚くとともに、悪いニュースに流されていた自分自身を恥ずかしく思った。生徒の多くが「日本に留学したい!」と言ってくれたが、なぜそれほど勉強への意欲があるのか分析してみたところ、日本に対する「興味」こそが、彼らを突き動かしているのではないだろうか。日本のアニメや漫画、曲、さらに日本の綺麗さやマナーの良さは、世界的に認められているものであり、改めて誇るべきものであると感じた。これから海外の人に日本の文化を簡潔に伝える機会も出てくると考えられるため、自分が日本文化を理解する良い機会となった。

また、コミュニケーションをとるにあたり挨拶の重要性を感じた。「こんにちは(你好)」「ありがとう(謝謝)」、この2つを言うだけで中国語を話せなくても相手は笑ってくれ、雰囲気がとても良くなった。挨拶はビジネスにおいて最も重要なものであるため、これからも意識して自分から挨拶をしていきたい。

4. 今後の展望

私は今教師を目指しており、今回の派遣を通してより教師になりたいという思いが強くなった。私の教え方は未熟なものであったが、それでも生徒が興味を持ちながら学んでくれることに喜びを感じた。

これからの生活の中でもPDCAサイクルを徹底し、「成功事例」から「成功要因」、「失敗事例」から「失敗要因」を得て、その積み重ねを普段の学業、さらには就職活動にも役立てたい。また「語学力とコミュニケーション力」「日本文化と異文化理解力」「情報収集力」「自己認識力」そして「5福」を身に付けるため、毎日自分の思考フレームに基づいて行動し、Only One の能力を身に付け、将来世界で活躍できる人材になりたい。